

○令和2年度以降の福島県内における主な奏功事例

| 番号 | 発生月 | 火災・非火災 | 概要 |
|----|--------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | R2. 4 | 火災 | 隣接する住宅から延焼したが、寝室に設置してあった住宅用火災警報器の鳴動により、住人は早期避難ができ、負傷者がでなかった。 |
| 2 | R2. 4 | 非火災 | 台所のガスコンロ(魚焼きグリル)使用中に隣の居間へ移動し食事をとっていたところ、グリルから煙が発生し、台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動したため、火災に至らなかった。 |
| 3 | R2. 5 | 非火災 | IH調理器使用中に台所を離れたところ、台所に設置してある単独型住宅用火災警報器(煙式)の警報音が聞こえたため、居間にいた所有者が台所に向かいIHのスイッチ及びブレーカーを落とし、火災に至らなかった。 |
| 4 | R2. 5 | 非火災 | 共同住宅2F台所で、お湯を沸かすためガステーブルに火を点けようとしたところ、誤って魚焼きグリルに点火し、気が付かずにその場を離れ放置したため、グリル内の受け皿に堆積した油が過熱発煙し居間兼寝室に設置している住宅用火災警報器が発報。異常に気が付き、ガスの元栓を閉鎖したため、火災に至らなかった。 |
| 5 | R2. 10 | 非火災 | 居住者が鍋を火にかけたまま、台所から居間に移動していた間に、鍋の中の水分がなくなり、鍋から発煙したことにより台所の住宅用火災警報器が鳴動し、警報音に気付いた居住者がコンロの消火ボタンを押し、ガスの元栓を閉めたため、火災に至らなかった。 |
| 6 | R2. 12 | 火災 | リチウムイオンバッテリーを長時間充電し続けたことが原因でバッテリーが何らかの異常をきたし出火した。(推定) 居室の住宅用火災警報器が鳴動し、出火を早期に発見できたことから、居住者が初期消火を行い、被害を抑えることができた。 |
| 7 | R3. 3 | 非火災 | 居住者が台所のガスコンロで鍋に火をかけたまま、屋外で洗濯物を干していたところ、鍋から白煙が上がり、台所の警報器が鳴動した。付近の住民が鳴動音及び白煙に気づき、ガスコンロを止め、窓を開け排煙したため、火災に至らなかった。 |
| 8 | R3. 3 | 火災 | 居室で電源プラグを差し込んだスチームアイロンから煙が上がり、警報器が鳴動した。 別の部屋にいた居住者が鳴動に気づき、居室に行きスチームアイロンの電源プラグを抜くとアイロン本体から出火したが、屋外に持ち出し、建物への延焼を免れた。 |
| 9 | R3. 4 | 非火災 | 居住者が台所のガスコンロで鍋に火をかけた状態で、調理中であることを忘れて外出したところ、鍋の内容物が焦げたことにより煙が発生し、寝室及び居間に設けられた住警器が鳴動した。 住警器の鳴動音に気付いた隣の部屋の住人が当該部屋の換気口から煙が出ていることを発見し、消防に通報。火災には至らなかった。 |
| 10 | R3. 7 | 火災 | 居住者がベットの上で喫煙していた際、誤って火種を布団に落としてしまい、無炎燃焼が継続し出火。 住警器の鳴動に気付いた隣人が消防に通報、初期消火を行い、被害を抑えることができた。 |
| 11 | R3. 9 | 非火災 | 居住者は土鍋に火を掛けたまま外出していたが、信号待ちをしていた自動車の運転手が住警器の警報音に気づき、警報音の方向にある住宅の窓から白煙が出ていることを確認した。運転手は車を止め、その住宅の中を確認したところ、台所にある土鍋から白煙が出ていることを確認したため消防に通報。火災には至らなかった。 |

○令和2年度以降の福島県内における主な奏功事例

| 番号 | 発生月 | 火災・非火災 | 概要 |
|----|--------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | R3. 11 | 非火災 | 居住者が調理中に火をかけた状態で寝てしまい、鍋から発煙し、寝室の住警器が鳴動したもの。住警器の鳴動に気付いた居住者が火を止め、火災に至らなかった。 |
| 13 | R3. 11 | 非火災 | 居住者が鍋に火をかけた状態で外出してしまい、時間の経過とともに空焚き状態の無炎燃焼が継続し、白煙が上がると居間と寝室に設置された住警器が鳴動。通りすがりの人が警報音と煙に気づき消防に通報。火災には至らなかった。 |
| 14 | R3. 12 | 非火災 | 居住者が電子レンジで肉まんを温めていたところ、電子レンジから白煙が発生して室内に充満し住宅用火災警報器が鳴動。警報音と焦げ臭い臭いに気付いた上階の住人が駆け付け消防に通報。火災には至らなかった。 |
| 15 | R4. 1 | 火災 | 改修中の住宅にて業者が投げ込み式ヒーターでバケツに入れた水を加熱していたが、ヒーターの電源を入れた状態で現場を後にしたため、時間の経過とともにバケツ内の水が蒸発、空焼き状態でヒーターが高熱になりバケツに着火した。近隣住民が家の外に出た際、住警器の警報音と住宅からオレンジ色の光が出ていることに気づき、火災を発見、通行人に119番通報を依頼した。バケツ周囲のブルーシート及び床に延焼したが、通報により被害を抑えることができた。 |
| 16 | R4. 1 | 火災 | 居住者が喫煙中にうたた寝をしてしまい、座布団に着火し出火。住警器が鳴動し、鳴動音に気づいた居住者が初期消火を実施。さらに煙に気づき駆けつけた付近住民により洗面所で座布団に水をかけ消火。被害を抑えることができた。 |
| 17 | R4. 1 | 非火災 | 台所で小豆を煮るためカセットコンロ上に鍋をかけた状態でその場を離れていたが、住警器が鳴動音に気づき、台所へ行くと鍋から白煙が出ているのを発見。鍋の内容物(小豆)が焦げたものの、火災には至らなかった。 |
| 18 | R4. 2 | 非火災 | 住人が鍋に火をかけたまま寝てしまったが、大家が住警器の警報音に気が付き、敷地に隣接する貸家からの白煙を確認したため消防に通報。住人は室内で寝ていたため、大家の妻がガステーブルの火を消し、住人を外へと避難させた。早期発見により火災には至らなかった。 |
| 19 | R4. 2 | 非火災 | 住人が煮物を調理中に鍋に火をつけたまま外出してしまったが、隣人が焦げ臭い臭いに気づき、隣の部屋の玄関を確認したところ、住警器が鳴動しており、呼び鈴を鳴らすも応答が無く不在のため消防に通報。早期発見により火災には至らなかった。 |
| 20 | R4. 2 | 火災 | 共同住宅1階空き部屋を清掃した業者がポリバケツに入れた投げ込みヒーターを通電状態で放置してしまい、ポリバケツの樹脂部分に着火し延焼拡大した。住警器の警報音に気付いた隣の部屋の住人が火災を発見し、消防に通報。被害を抑えることができた。 |
| 21 | R4. 3 | 非火災 | 居住者が鍋に火をかけたまま出勤してしまい、過熱された鍋の内容物(みそ汁)が焦げ、白煙が出たもの。隣室の住民が住警器の警報音に気づき、外に出たところベランダから白煙が出ているのを発見し消防署へ通報。早期発見により火災には至らなかった。 |
| 22 | R4. 4 | 非火災 | 台所にある電子レンジでラップに包んだサツマイモを加熱していたところ、加熱開始6分後、電子レンジから煙が噴き出し、台所天井に設置してあった住警器が鳴動したため家人が警察へ通報し、警察より消防へ通報。早期発見により火災には至らなかった。 |